

(3) 自由記述

No	F3:BD専攻	F3:BD入学年	自由記述
1	無回答	2005年	日本の企業全体にもっと国内MBAの価値が伝わったらよいと感じる。転職をするしか、この価値を確認できないことが残念。今までは、キャリアアップ、知識の習得と考えていたが、修了した後もやはり年収アップや責任アップがないと、費したものの回収ができないものだったのかと考えてしまう。
2	ビジネスデザイン	2006年	・立教大学ビジネスデザイン研究科で学んだ事で、自分のキャリアを大きく変える事が出来た。その意味での費用対効果は絶大であった。国内MBAは、学校名ではなく、何を学んだか、自分の能力はどのレベルになったか、が社会で評価されていると思われる。逆に、その様に評価されないと、単なる最終学歴の書き替え、となってしまうのではないかと。・大学院は受け身の姿勢ではなく、自ら何を学ぶかが求められると思う。その意味では授業の内容に過度の期待を持つのではなく、どの様な教授陣がおり、研究サポートのインフラがどの程度設備されているか、で選ぶべきだと思う。・国内MBAを開設している大学数、入学のしやすさを考えると国内MBAを取得した事に関するブランド価値はほとんど無いと思われる。結局は、我々卒業生がどれだけ社会に貢献できるかが重要であり、それが母校の評価になると考えている。この様に考えると、大学が出来る事の検討と共に、入学する学生の質を高め、学生同士が刺激しあう環境を強化していく事が重要ではないか。現状の”ほぼ全員合格”という形では、少々ものたりないのではないかとと思う。
3	ビジネスデザイン	2003年	大学院での学習を通じ、実務のおもしろさや先進性に改めて気づいた私としては何となく答えにくかったです。自分の気持ちと違和感のある選択肢が多かったです。また、最近最近会社で起こっていることを攻めて学問的視点から捉え直したいと思うこのごろ、再入学では負担が思いのでもう少し手軽な手段はないかと思っています。単課目研究とか・・・&返信用封筒を受取人払いにすればコスト削減になりますよ。
4	ビジネスデザイン	2006年	私の年齢になりますと、理論と実態では乖離があることは承知している。理論を学び、実態を分析（この方法も学ぶわけですが）し、その乖離を把握した上で、いかに実態(自分のおかれている場)をよむと思われる理論上のものに近づけるか。或は落とし込んでいくかが、自己努力であり、そのための方法を学んできたのがMBAと理解している。実態経験豊かなかたがたが入学され、勉強されるのはすばらしいことであると思います。しかし、理論と実態の差を前面に出された授業等で発言されては、理論を学ぶ授業が成立しなくなる。今後経験豊かな方々の入学の場合、理論と現実及びその処理をきちんと理解していただいたうえでのご入学お願いしたい。方法として、入学後単位の取り方などのオリエンテーション以外に、きちんとどのように何を学ぶべきかのオリエンテーションを最初にきちんとやっていただいたほうがよいような気がいたします。提案ですが、立教MBAをでた方々は、別な見方をいたしますと立教MBAの応援団でもあります。1年に一度卒業生（現役も一緒可）を対象に、オープン講義として、どなたか先生に講義をお願いし、その後学食でも「人脈経営のための異業種交流会」的な会合を(学食などは有料可)立食でも主催していただければ、同窓会にも、交流にもなりますので、このような交流会の場を作っていただければ1期から現役まで幅広い方々が参加できる会合となるのではないのかとおもいます。このような調査をしていただくことにおいて、自分の入学前の志と卒業後を相対的に見ることが出来感謝申し上げますとともに、発言の場を提供していただき感謝申し上げます。
6	ビジネスデザイン	2004年	2年間の大学院生活では、時間が足りないと感じるくらい様々な勉強をし色々な人々と意見交換をさせていただいた。卒業後「MBAとは何だったのか？」と考えると、明確な答えはない。人によってMBAに求めるものが異なるからである。特定のジャンルの勉強をしたい人もいれば、人とのコミュニケーションを求めるものもある。MBAという学位が欲しい人もいる。人によって目的は様々で一概に「MBAとは・・・」とは表現できない。自分にとってはキャリアのみ直しをする2年であったと強く感じる。当時在籍していた「会社」、[営業]という職種、「年齢」、これらの枠組みをとびこえて様々な方々と学んだ2年は貴重でした。MBAで学ぶ事は特別な事はありませんでした。実務や独学でも学べる内容です。だからこそMBAは学位を習得して終了ではなくキャリアのスタートなのだと思います。立教は卒業後の交流や継続学習の場が少ないので今後強化してほしいと思います。卒業後、私は同じ職場に2人のMBAホルダーがいました。1人は経営者、1人は経営企画。2に共通していたのは、「MBAホルダー」をキャリアの終着としていて、その後の発達がありませんでした。自分はそうならないようにしたいと思っています。以上
7	ビジネスデザイン	2005年	私自信は学ぶことも多く考え方も含め大きく成長できたと考えています。しかし、職場に戻った時（フルに残業でもできるようになり仕事一本になった時）でもRBSにて学んだことは活かすことはできず、収入にも反映されず、という状況でした。自己啓発以外のものを身につけたはずでしたが、なかなかそれを活かすチャンスがなく結局転職を求める結果となりました。転職に際しては、修了後2年かかると（この4月によりやく転職します）ましたが今思うことは在学中に転職についての情報や活動のためのネットワークがあればなあということでした。アンケート内でも人的ネットワークに触れていましたが、学術的なネットワークだけでなく、修了生に対し継続的な転職支援やスキルアップ講座や聴講制度などを幅広く行っていただければと思います。（メーリングリストは良くチェックしていますが、最近あまり聴講情報当もないように思うので）補足ですが、．．．RBSにて通っていた時と世界の情勢も大きく変わり、学んだ知識や理論も変化していると思います。新しい情報をチェックアップしていきたいと思っています。

No	F3:BD専攻	F3:BD入学年	自由記述
11	ビジネスデザイン	2002年	立教MBA修了で得た事①キャリアの成長が会社に貢献できる事を体得した。②キャリアの成長と共に人的ネットワークが拡大した。③キャリアの成長を通して「場」の設定を意識できた。「気合と根性」だけでは乗り切れる、現状において議論する精想する、実行する事が重要であり、MBAなどの基礎的な展開に役に立ちました。現実のビジネスと概念としてまとめ上げる力、これが日本のMBAの目的だと修了後に気づきました。本当に立教MBAに通わせていただき感謝しております。
14	ビジネスデザイン	2005年	現在の会社、経済状況を見ると、私自身が立教で書いた内容の卒論の方法で、中小企業経営を行うことは、正しかったのではないかと感じています。自分自身の経営方法をあらためて、文章化し、実践するという機会が持ててとてもよかったです。
16	ビジネスデザイン	2002年	最近多くの大学院でMBA講座が開かれています。但し内容を聞いてみるとビジネスゲームとレポート(30枚程度、修論扱い)で修了証を出している学校が多く、その様な中でMBAを一律に語るのは、欧米の大学等を抜きにして、基本的な学力知識の習得において大いに問題ありと考えます。算問項にもありましたが、ビジネススクールの価値向上、優秀な生徒卒業生そして授業内容につきると思います。勿論学校経営において少子傾向の中、重要収益源であることは十分理解致しますが、(おかげで素晴らしい施設で勉強ができました)、是非両立に向けた学校経営の在り方を、一修了生として提案したいと存じます。適当にいれて適当に卒業できる学校も少なくない中、本学に関しては「優秀」というイメージが定着する様望みます。「美学」が立派な社会人を輩出する大学というイメージ定着に向けたPRも必要ですし、Ph. d保有の教授陣の充実が必要かと存じます。今後の本学の更なる発展を心から期待しております。
17	ビジネスデザイン	2005年	ビジネスデザイン研究科を修了し、数年が経過しております。実務経験を重ねるに従い本学で学んだことの意味を再発見しております。また、当時のレポートや講義で使用したテキストをReviewすることも多くなりました。経営をするに必要な「物事をみる視点、考え方」が身についたように思います。その意味で本学での時間が大変有意義な時間であったと実感しております。立教大学MBA課程が実社会で多くの”企業家”に役立つコースとして継続されますことを願います。
18	ビジネスデザイン	2003年	大学院修了前後、仕事を辞め、出産、育児に2年ほど専念していました。再び仕事に就きたいと職探しをし、残業ゼロの前提で収入は大幅にダウンしたものの、修論のテーマと同じ仕事に就くことができ、今は、大学院時代に学んだことや当時の人脈が大変役立っています。また、子供がいるハンデがありながらも、責任ある仕事と育児で仕事を抜けたりしてしまうことに周囲が配慮してくれるのも、短期間に能力を発揮する知識とスキルのおかげで、やはりそれは大学院と仕事をこなしてきたことも大きく貢献しているかな、と思います。
20	ホスピタリティデザイン	2004年	・私の卒業年度時点での感想ですが、立教の講師陣には、偏りが多く、得た知識にも均一性が乏しいと感じています。・MBAを取得したからと言っても、今の日本の社会では、その地位は認められていないに等しく「MBAだから」といった転職は、まだまだもおおくはないのではないのでしょうか。私が専攻し今もその業界にいるホスピタリティ産業界ではとくにそれが強いと感じます。せっかく取ったMBAやその知識もさびついていくのを感じます。
21	ビジネスデザイン	2003年	・修士課程という学者を育成するプログラムの中でMBAのような実践的なプログラムを実施することに矛盾があると思います。というのも修士要件とした論文・調査研究がありますが、これは非常に限定したテーマを深ぼりする作業であって、ビジネスに役立つ知識や考え方を幅広く吸収しようとするMBAの目的と両立しないからです。・立教に行く前はMBAを修了したら、ビジネスに関する法律について勉強するため社会人向けの大学院に進学するつもりでしたが、修士課程ですと論文作成が義務づけられ、これは、私の目標とは一致しないことから論文のない法科大学院に変更しました。・少なくとも、私のいた頃のビジネスデザインは、大学院というよりもカルチャースクールに近いと思いますので、修士と名乗るためには選考方法から見直すべきです。
22	ビジネスデザイン	無回答	調査、あるいはその手法というのは大変ですね。質問などもどうしても定型の中から、真実を調査していくというのは、様々な工夫や技術が必要なものだと思います。

No	F3:BD専攻	F3:BD入学年	自由記述
23	ビジネスデザイン	2004年	入学前はアメリカで育ったMBAについてもう少し勉強する事が出来るもの思っていたが思っていた以上にそのレベルは低く努めて外部経験の教師について勉強してみたがかなうことは出来なかった。又、日本ではMBAの社会認識度が低く企業でも考えている以上に手をさしのべる事はなく、必然的に勉る側も時間制約にとらわれて講義参加も低く主催側も熱が入らず、少数での受講室が更に柏車をかけた。日本ではシリコンバレー的ステータスの発展は多分成立しないだろうと思いましたが・・・しかし近年、サブプライムローンに●●●●金融破綻、それに世界経済不況の現況時に今考えると、むしろ、これで良かった。再度、皆んなで勉強しなくては、だめなんだと考えております。益々保護主義に成る社会、私達は、自分の勉んだ事を、更に磨きを掛けて、倒産させる事のないように、そして立教ビジネスデザイン卒は凄いとされるようにレベルを上げて利益を出して社会に貢献したいと思えます。
24	ビジネスデザイン	2005年	もう少し、Financeに力を入れたかったが、プログラムが限られていた。とは言え、現場で様々な局面に遭遇し、それぞれ（特に理-財務）のプロと話す事で、勉強できている。MBAで基礎も大事ですが、やはり一番の売りは、一緒に授業に参加する同級生の質かと思えます。「教科書」や「講師の言葉」よりも「プロの言葉」の方が面白いし、役立つ。
25	ビジネスデザイン	2004年	・調査を継続される事が大切だと思えます。・私自身は立教大学大学院ビジネスデザイン研究科に入学、卒業できて本当に良かったと思っています。
28	無回答	2005年	大学院で学んだJ-SOXに関する研究を基に起業し現在に至ります。今以上に、企業の内部統制に関する知識を深め専門性をさらに高めたいと思えます。又、今後は上記を研究テーマとし、近い将来博士課程へ進むことを考えています。
30	ビジネスデザイン	2006年	大学院の入学も含め、自身の知的関心の赴くままに様々な知識を吸収してきたので、ここからはここまでの経験を”総合力”として生かせる様な”何か”を考えなくてはいけないと思っています。具体的には見えていませんが、後輩の育成や知識を提供できるサービス等、私自身を職業人として育ててくれた会社へのささやかな貢献をしていくことがMBA Holderとしての役割ではないかと考えています。
32	ビジネスデザイン	2006年	ゼネラリストを育成するという貴校の方針のもと、幅広い分野の知識を習得できました。有難う御座居ました。
33	ビジネスデザイン	2003年	現在の世界同時不況の中、会社の年輩の方がどんどんリストラされていくのを見て、改めて自分自身を鍛え直す必要があると痛感している。
37	ビジネスデザイン	2006年	学部卒に入った企業で全てが決まる新卒重視傾向を感じる。MBAに行っても社会的評価は無く、今までのキャリアの延長での評価もしくはMBAに行っていた事がマイナス評価になるように思える。キャリアを変えたいと望んでいたが、現在も変化がなく停滞感がぬぐえない。一方、学んだ事で、一つの情報でその背景や関連事項にまで考えがおよぶようになり、トータルとしての知識は身につく、これから役に立てるキャリアの土台が出来たものと思う。OBネットワークを使ったりサーチは有要と思えるので、今後とも協力していきます。また、そのサーチ結果については教えてほしいです。

No	F3:BD専攻	F3:BD入学年	自由記述
43	ビジネスデザイン	2003年	<p>社会の中で、MBAの認知度は、大企業では浸透していると思われませんが、私が勤務している中小企業では、認知度はかなり低いと実感しております。MBAは、資格ではなく、学位であることも一つと考えられます。企業が刷る名刺には、肩書きや資格は記載されますが、学歴に関しては、表紙に記載されることは、ありません。私が、MBA取得までに、勤務していたのが神奈川県内のゼネコンでした。MBA取得後は、建設業（住宅産業に近い、ゼネコン）関東～近畿地方全域に転職しました。建設業は確かに、外側に目を向けず、内側に重視し、長期的な展望をたてることを自ら選べず、企業の存続のために、目先の利益重視を選び進んでいます。転職前のゼネコンでは、MBA取得の必要性や、その後の仕事の取組み方や、新しいビジネスプラン等の、提案を試みて何度か打合せて頂きましたが、経営の勉強はトップがすることであって、社員は専門分野をもっと重視して勤務することを断言されました。この企業風土の中で、環境を変えずに、打破することは、ありえないと確信致しました。現在の会社も建設業ですが、中途採用者をメインに採用していて、前の会社のように古い体質ではなく、社員の自主性を尊重する企業であったから転職いたしました。MBAの中でも、建設業出身者は、比較的に数が少ないと思われます。私は、建設現場の所長をしながら、MBAの授業に出ていましたが、突貫工事との平行授業だった為、3年かかって卒業致しました。学校や先生方、ゼミ仲間にも、多大な迷惑をお掛けしたことは、今でも反省しています。私事ではありますが、もっと広範囲で授業をうけるべきだったと痛感しています。ただ、立教大学で自由の精神のもとで、学べたことは、誇りに思っております。MBA取得後は、本も読む量が増えました。また、自主的に勉強や研究・調査を行うようになりました。景気や時代が急速に変貌する時代に、MBA取得者だからといった甘えは通用しません。MBA取得者（RBS）だからこそ、時代をリードしていく、新しい道筋を示し、提案していくまた、実践の場を築いていくことが、義務ではないかと思っています。私達、MBA取得者自体の輪を大切にするとともに、MBAの既在の通学者とも交流を増やし、学校も含めてもっと切磋琢磨する必要があると感じています。</p>
48	ビジネスデザイン	2004年	<p>立教のMBAのブランド価値やランキングが本によると著しく低いこと、高めなくては、社会から消えることになる。何か考えないといけない時期と思えます。</p>
52	マーケティング	2006年	<p>調査結果のフィードバックをお願いします。最近の経済状況において、多角的に物事を判断するモードが広がった。しかし、日本でのMBAの企業内での評価は、決して認知されているとは考えにくい。特に大企業では、遅れを感じる。組織文化が最優先され、戦略などの視点は遠い存在である。表面的な理解により、“戦略”マーケティングなどの言葉を多用している現実もある。MBA取得者の行動により、認知、価値を高めて行く使命を感じる。</p>
55	ビジネスデザイン	2006年	<p>ビジネススクールにおいて2年間学んだことは、自分を大きく成長させてくれました。しかしながら、日本の社会においてはまだまだMBAの価値への理解は低く、職場においても「ふーん」といった反応しかない。専門職学位を得るために、投資した時間その他へのリターンをすぐに求めてはいけないうちかもしれないが、MBA=未来のリーダーへの素地であるをもっと社会に認められれば・・・と思います。自分の努力はこれから先も続く訳であった立教大学のMBAがまた、修了者に対しても広く門戸を開き、さまざまな機会の創出をしてくれることに期待したいと思います。後期課程とはいわないまでも、ポストMBAに対する教育課程などコースである嬉しいです。また修了者には割安で授業を開放するなど。きっとまた大学院に戻りたいのだから、こんなことを書くのかもしれませんが。</p>
57	ビジネスデザイン	2005年	<p>アンケートの結果と分析結果をお知らせください</p>
59	ホスピタルデザイン	2002年	<p>小生の場合は、修士課程の修了ということが是非とも必要であったために本研究科に入学させて頂いた。頂度開設年度にあたり、大学側にも学生側にも多少のともどいはあった。一般にMBAについての評価が、わが国では依然として定まらず企業においても十分に受け止められていないのはいささか残念です。しかし、大学（学部）教育の大衆化が更に進む（全入時代）なかでは、高度専門職業人（マネジメント層）の育成のためには、本来果たすべき機能があり、ビジネススクールとして、現場にも片足を置いた、より有能な人材育成に向けた教育を期待します。</p>
62	ビジネスデザイン	2004年	<p>院へ入学した動機は現職（大学教員）になるために、修士をとりたかったためです。在学中お世話になった先生や院生のお陰で目標は達成しましたが、立教大学院BDだからという視点では思いつきません。せっかく、社会人がこれだけ集っているのですからそのリソースを有機的に活用しなければ独自性は打ち出せないと思います。</p>

No	F3:BD専攻	F3:BD入学年	自由記述
63	HRM	2002年	漠然とした閉塞感をなんとかしたくてMBAにチャレンジしましたが刺激的で優秀な人たちと2年を過ごし、履歴者や金額では表せない価値を得ました。私は20代後半をその時期に充てることができ、幸運だったと思います。尚、同じMBAに通う後輩たちの評判があまり良くないことに心を痛めています。先日は私の上司のところに企業研究でおみえになった方が、事前の情報収集がほとんどできていなかったとのことで、はずかしい思いを致しました。社会人とはいえ遠慮なくご指導下さい。よろしく願い致します。また、本調査の結果とそれをふまえた立教大学大学院の今後のアクションについては、必ずフィードバックをお願いします。同封いただいたお手紙にもありましたように、この調査の結果が研究科の向上に貢献するようお願いしています。
65	ビジネスデザイン	無回答	少し英語での授業が足りないと思います。業種、立場によっては必要ない方もいると思いますが、必要不可欠なスキルとして、増々要求されていくでしょう。金銭的、社会的な理由で海外のMBA/ビジネススクールへ行くことが出来ず、国内ビジネススクールとして立教を選択した人も少なくないと思います。そこで、スクールの特色を出すという意味でも、英語での授業、請託、ディスカッションをふんだんに取り込まれると良いと思います。
66	ビジネスデザイン	2003年	MBAを取得することによってビジネスをする上での自信にはつながったが、本当に大切なことは「何を学んだかよりも何ができるのか」のような気がする。ただ、自分にとっては最良な時期に立教のビジネスデザイン研究科と出会いそこで学べたことは、何事にも変えがたい財産になっている。あとは実践のみ。
68	無回答	無回答	この内容ですと個人情報元の（特定が安易すぎるし個人名を開示しているのと同じ）と思います。もう少し配慮される必要があったのではないのでしょうか。
71	ビジネスデザイン	2002年	・「実践力」がなければ意味がない」行動力 課題設定 プレゼンテーション力・「MBA」という言葉をつかう人がいるけれども、つかう人ほど、仕事はできないと思った。・入学者のレベルに差がありすぎて、授業になっていなかったのがあった。最低でも「会計」を知らない人は、いてはしかなかった。不景気になると事業再生の仕事が多くなり、多忙になります。体力と精神力は修業中にやしなわったことと思っています。
75	ビジネスデザイン	2006年	日本でのMBAはあくまで自分自身と高めるため、自分が自信をもって働くことが可能とするための精神的なものが多く、MBAホルダーとなることにより社会での地位を期待すべきではないと考えます。
77	ホスピタリティデザイン	2004年	MBAを取得したことが、転職の際に有利に働いたことは事実です。
79	ビジネスデザイン	無回答	社会人として。特に海外MBA取得者と何が違うのか、価値があるものなのか本人も意識を高く持つことは重要だが学校側のメッセージ、社会や企業に対する存在感をどう確立していくのか、景気後退の中、今後更に問われると思う。
83	マーケティング	2006年	立教大学でMBAを取得した後、経営に関しての学問・実務に非常に積極的に活用・情報収集・独学を継続的に行う様になった。しかし、修士生として要望があります。修士生に対して、定期的な「修士生向けの講座・セミナー」を実施して頂きたい。〈1日もしくは半日でもOK〉今日の経営においては様々な社会環境が変化し、経営学も日々変化している。その様な状況の中であるがこそ、立教大学大学院MBAホルダーとしての価値を向上するためにも 修士生向けに経営学の各課題もローテーション毎に講座・セミナー実施してその時代に「生きたMBAホルダー」を育成してほしい。他大学院でも実施していないため、立教大学大学院が最初に取り組んでほしい。

No	F3:BD専攻	F3:BD入学年	自由記述
84	ホスピタリティデザイン	2005年	・国内MBAの認知度の低さと評価の低さ・転職の際、MBAホルダーで有ることが十分理解されない(時にはネガティブにすらあつかわれる)
85	ビジネスデザイン	2004年	ビジネスデザインのとくに学んだことは実務にどの程度役立っているかわかりませんが、集中力と時間の有効的な活用法、人脈がつくれるいろいろな考え方の人々と交流できるようになったのは大きな財産だと思っています。
88	ビジネスデザイン	無回答	手書きで長文を書くのが苦手です。忙しいので、Webもしくはメールで、キーボードで入力する回答方法なら、いろいろ書く気になれるのに、残念です。

MBA 課程修了者のキャリアと職業意識に関する調査

調査実施担当者

立教大学大学院ビジネスデザイン研究科	准教授	山中伸彦
立教大学大学院ビジネスデザイン研究科	准教授	元治恵子
立教大学経営学部	助教	元山年弘